

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成24年2月23日(2012.2.23)

【公開番号】特開2010-192954(P2010-192954A)

【公開日】平成22年9月2日(2010.9.2)

【年通号数】公開・登録公報2010-035

【出願番号】特願2009-32272(P2009-32272)

【国際特許分類】

H 04 R 3/00 (2006.01)

H 04 R 1/28 (2006.01)

【F I】

H 04 R 3/00 3 1 0

H 04 R 1/28 3 1 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成23年12月27日(2011.12.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項4】

請求項3に記載の音量補正装置において、

前記声平均レベル生成手段は、

前記連続関連音区間の先頭期間において、前記声平均レベル検出手段で検出された前記平均レベルと前記入力音声信号の声区間の平均レベルとを比較し、その比較結果に応じて前記先頭期間における前記平均レベル検出時定数を変化させる

音量補正装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

また、請求項4の発明は、請求項3に記載の音量補正装置において、

前記声平均レベル生成手段は、

前記連続関連音区間の先頭から一定区間ににおいて、前記声平均レベル検出手段で検出された前記平均レベルと前記入力音声信号の声区間の平均レベルとを比較し、その比較結果に応じて前記先頭期間における前記平均レベル検出時定数を変化させる

ことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0080

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0080】

一方、第2平均レベル検出部3414は、加算出力信号Smのレベル変化に応じた閾値レベルdを設定する目的で、加算出力信号Smの平均レベルを検出するもので、その平均レベル検出時定数は大きな値に設定されている。

【手続補正4】**【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0096**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0096】**

そして、エンベロープ検出部33からのエンベロープ信号S_{emv}が、選択部361の一方の入力端に供給されると共に、連続関連音区間検出フラグS_{FLG}が選択信号として選択部361に供給される。この選択部361の出力信号は、積分部362に供給される。そして、この積分部362の出力信号が、選択部361の他方の入力端に供給されると共に、平均レベル生成部36の出力信号V_{avr1}として出力される。

【手続補正5】**【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0292**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0292】**

したがって、この第5の実施形態では、ゲイン制御信号生成部23は、総合平均レベル検出生成部72からの合成レベル信号のレベルが、基準レベルとなるようにするゲイン制御信号を生成して、可変ゲインアンプ21L, 21Rに供給するようとする。

【手続補正6】**【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0309**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0309】**

図34の例においては、図31の例と同様に、声以外平均レベル生成部71が設けられる。また、図34の例においては、声平均レベル生成部39および総合平均レベル生成部72の代わりに、総合平均レベル生成部73が設けられる。